編	章	節	条	枝番 工 種	,	測 定 1	頁 目	規格値	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘	要
10 道路編	1 道路改良	3 工場製作工	2	遮音壁支柱製作工	部材	部材長	ι (m)	$\begin{array}{c} \pm 3 \cdots \ell \leq 10 \\ \pm 4 \cdots \ell > 10 \end{array}$	図面の寸法表	 表示箇所	で測定	0						
10 道	1 道	9 カ	6	場所打函渠工	;	基準	≒ ▽	±30	両端、施工組 所で測定。	迷手及び	図面の)寸法表示箇						
路編	路 改	ルバ			,	厚さ t.	∼ t 4	-20					t _{1 W}	. t₂	k	L		
	良	トナ			-	幅(内法)	W	-30	-				t 3 🛧		ļ			
		エ				高	Š h	±30	-				h					
					延 長	L <	20 m	-50	-				'					
10	1	11	4	落石防止網工	L	L≧	20m	-100	1 施工箇所領									
道路	道 路	落石	4		-	幅	W	-200			ш.,							
編	战 良	- 雪害防止工			-	延 -	Ē L	-200	要領 (案)」(要領 (案)」(法を用いるこ ただし、「3 形管理要領 行う場合は、	の規定に ことがで 次元計測 (案)」の	よる測 きる。 技術を 規定に	と用いた出来 こより管理を						
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止	5	落石防護柵工		高 。	Š h	±30	施工延長 20r 20m以下のも ヶ所。 「3次元計派 要領(案)」(法を用いるこ	oのは1 側技術を の規定に	施工箇 用いた よる測	所につき 2 出来形管理		- h		L	国 40m ↓ 県 20m	
		工			;	延	Ē L	-200	1施工箇所 「3次元計 要領(案)」の 法を用いるこ ただ理理の 行う場合は、	側技術を の規定に とがで 次元計測 (案)」の	よる測 きる。 技術を 規定に	別点の管理方 ≥用いた出来 こより管理を	/∷∐::\ [™]					

編	章	節	条	技番 工 種		測	定項	目	規	格	値	[測定基準 測定箇所 摘 9	要
10 道路編	1 道路改良	11落石雪害防止工	6	防雪栅工		高	さ	h		±30		施工延長 20m につき 1 ヶ所、施工延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。 「3 次元計測技術を用いた出来形管理要領 (案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。	
						延	長	L		-200)	1施工箇所毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」の規定による測点の管理方法を用いることができる。 ただし、「3次元計測技術を用いた出来 形管理要領(案)」の規定により管理を 行う場合は、延長の変化点で測定。	
					基礎	幅高		1₁, w₂.		-30 -30		基礎1基毎 「3次元計測技術を用いた出来形管理 一要領(案)」の規定による測点の管理方	
												法を用いることができる。	
10 道 路	1 道 路	11 落 石	7	雪崩予防柵工		高	さ	h		±30		施工延長 20m につき 1 ヶ所、施工延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 ヶ所。	
編	改 良	雪害				延	長	L		-200)	1施工箇所毎	
		防止			基	幅	W.	ı., W.2.		-30		基礎 1 基毎	
		エ			1定	高	č	h h		-30			
					アンカー	打	込 み	7 l	-	-10%	o o		
					長ℓ	埋	込み	's l	-	- 5 %	0	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
10 道	1 道	12 遮	4	遮音壁基礎工		幅		w		-30		施工延長 20m につき 1 ヶ所、施工延長 20m 以下のものは 1 施工箇所につき 2	
路編	路 改	音壁				高	ż	h		-30		ケ所。 県 20m	
	良	エ				延	長	L		-200)	1施工箇所毎	

編	章	節	条	枝番	工	種	測定	項目	夫	見 格	値	測	定	基	準	測	定	筃	所	摘	要
10 道路編	1 道路改良	12 遮音壁工	5		遮音壁本体工		世 ず す		1.2.	± 18 10 5 $h \times 0$.	5%	施工延長5%				d	h	L W1	*		
						_	延	長 L		-20		1施工箇所領	<u> </u>				b ★★		-1- - a		

編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	規 相 個々の測定値 (X) 中規模 小規模 以上 以下	各 値 10 個の測定値 の平均 (X ₁₀) 中規模 以上		測	定	基	準		測	定	箇	所	摘	要
10 道路編	2 舗 装	4舗装工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工		基準高▽ t < 厚 15cm さ t ≧ 15cm	±50 -30 -45 -100	-10 -15 -	で 厚起 幅 ※ 「3次元 3次元	片側級 て測定。 け側延昇 ポ2点 [*] 計測で に に に に に に に に に に に に に に に に に に に	延長 40m 長 40m で測定 支術を ひ規定	Om毎に 毎に1 する。 用いたる	出来形管理 測点の管理 。	が、ス未厚上ら値な未な、コ橋に中200万円であるのな(い満い、ア面損のでは、100万円である。	見の見アのよ削いこの 一浦傷の見アのよ削いこの 一浦傷をといた場 採装をと以と下に個でと「だ合 取等与法	は上は見ない見ない。とまれていると、と、合施の見ない、「別している」できる。これでは、「ない」では、「ない」では、「ない」では、「ない」が、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない、「ない	る。 る る る る る を は で 使 の は で は は 満 の し に で に が は 満 の し に 、 に 、 に 、 に 、 に に 、 に に 、 に に 、 に に に に に に に に に に に に に	なければな タ数が 10 対値は適用 こより床版 こ場合は、	↓ ↓ ↓ 20m ↓ p 20m ↓ p 200	m
10 道路編	2 舗 装	4舗装工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工		厚を	- 9 -25	_ o	測定。厚 所コアー 「3次元	ごさは、 一を採取 元計測打 案)」(片側類 取して 支術を の規定	延長 100 測定。 用いた による	ヶ所の割で Om毎に1ヶ 出来形管理 測点の管理	1	なによる	o _ 27	、出来る	•	幅 国 80m ↓ 40m 県 200 및 100	m

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定	項	目	規	格	値	測定基準測定箇所	摘要
10 道路編	2 舗装	5 排水構造物工	9		排水性舗装用路肩排水工	基	準	高	∇		±30		以下のものは1施工箇所につき2ヶ 所。 なお、従来管理のほかに「3次元計測 技術を用いた出来形管理要領(案)」 の規定による測点の管理方法を用いる ことができる。	3 40m ↓ ↓ 20m
						延		長	L		-200)	1ヶ所/1施工箇所 なお、従来管理のほかに「3次元計測 技術を用いた出来形管理要領(案)」 の規定による測点の管理方法を用いる ことができる。	
10 道	2 舗	7 踏	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基	ž	隼	高		±20		1ヶ所/1踏掛版	
路	装	掛				各	部 0	か 厚	3		±20		1ヶ所/1踏掛版	
編		版 工				各	部 0	の長	3		±30		1ヶ所/1踏掛版	
					(ラバーシュー)	各	部 0	の長	さ		±20		全数	
						厚			さ		_			
					(アンカーボルト)	中	心 (のず	れ		±20		全数	
						ア	ンフ	カー	長		±20		全数	
10 道	2 舗	9 標	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅		w ₁ ,	\mathbf{W}_2		-30		基礎一基毎	
路編	装	識工				高		さ	h		-30		「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理方 法を用いることができる。	
													体を用いることができる。 Wi	
													$\begin{bmatrix} w_2 & \bigcirc \end{bmatrix}$	
													₩ ₂	

編	章	節	条	枝番	工	種	測定項	目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘 要
10 道路編	2 舗 装	9 標識工	4	2	大型標識工 (標識柱工)		設置高さ	Н		1ヶ所/1基 「3次元計測技術を用いた出来形管理 要領(案)」の規定による測点の管理方 法を用いることができる。	Н

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘 要
10 道	2 舗	12 道	5	1	ケーブル配管工	埋設深t	0~+50	接続部間毎に1ヶ所	(ISISIISII
路編	装	路付属				延 長 L	-200	接続部間毎で全数	G t
		施設工							接続部 接続部 (地上機器部)
10 道	2 舗	12 道	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 ▽	±30	1ヶ所毎 ※印は、現場打ちのある場合	
路編	装	路付				※厚さ t ₁-~ t ⋅5-	-20		t ₃
מווקה		属施				※幅 w.i., w.2	-30	-	W1 t 4
		設				※高さ h.a, h.a	-30	-	t_1 t_2 t_2
		エ							h_1 h_2 t_5
10 道	2 舗	12 道	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1ヶ所/1施工箇所	
路編	装	路付			()(())(工在版工)	高 さ h	-30		w w
孙田		1 属施設工							
									h h

編	章	節	条	枝番	工 種		測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10 道路編	3橋梁下部	3 工場製作工	3		鋼製橋脚製作工	部	脚柱とベースプレ ートの鉛直度 δ (mm)	w/500	各脚柱、ベースプレートを測定。	ル 脚柱 ベースプレート	
						材	ベ Aの位置 ス プ レ	±2	全数を測定。 全数を測定。	- 0 00 8 d 8	
							Aの径 d	0~5 ±5···	両端部及び片持ばり部を測定。	L	
						仮組		$\begin{array}{c} L \leq 10 \mathrm{m} \\ \pm 10 \cdots \\ 10 < L \leq 20 \mathrm{m} \\ \pm (10 + (L - 20) / 10) \\ \cdots 20 \mathrm{m} < L \end{array}$			
						立時	はりのキャンバー 及び柱の曲がり δ (mm)	L/1,000	各主構の各格点を測定。	δ	
							柱の鉛直度 δ (mm)	$10\cdots H \le 10$ $H\cdots H > 10$	各柱及び片持ばり部を測定。 H:高さ(m)	H H	
										側面図 正面図	

編	章	節	条	枝番		ì	則定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10 道	3 橋	6 橋	8		橋台躯体工	-	基 準 高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。	 	10-3-6-8
路編	梁下	台工					厚 さ t	-20	箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。	h ₂ t	
小柵	部					5	F 端 幅 w ₋₁ (橋軸方向)	-10	なお、従来管理のほかに「3次元計測	t t	
						5	天 端 幅 W ₂ (橋軸方向)	-10	技術を用いた出来形管理要領(案)構造物工編(試行)」で規定する出来形	W ₂ W ₁ W ₂ W ₁	
						勇	数 幅 w ₋₃ (橋軸方向)	-50	計測性能を有する機器を用いることができる。(アンカーボルト孔の鉛直度	W ₂ W ₁ W ₂ W ₁ H H H H A A A A A A A A A A A A A A A	
						Ī	高 さ h _{-l} -	-50	を除く) ただし、「3次元計測技術を用いた出	h_1 h_1 t	
						用	歯壁の高さ h₂	-30	来形管理要領(案)」に基づき出来形 管理を実施する場合は、同要領に規定	t W ₃	
						7	F 端 長 l.ı	-50	する計測精度・計測密度を満たす計測 方法により出来形管理を実施すること	胸壁間距離 ℓ	
						勇	数 長 ℓ 2	-50	ができる。	支間長	
						j	胸壁間距離 l	±30			
						3	支間長及び 中心線の変位	±50			
						支承部ア	計画高	$+10\sim -20$		G G	
						ンカーボル	平面位置	±20		h1 → tal	
						トの箱抜き規格	アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50 以下		中心線の変位 (a1:橋軸直角方向) (a2:橋軸方向)	
						値				a1 a2 a2	
										/ il \ /il\	

編	章	節	条	枝番	工 種	測	定	項	目	規	格	値	測定基準測定箇所摘	要
10 道路編	橋	6橋台工	8		橋台躯体工								支承部アンカーボルトの箱抜き規格値の平面位置は沓座の中心ではなく、アンカーボルトの箱抜きの中心で測定。アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切った2隅で計測。	

編	章	節	条	枝番		種	1	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
10 道	3 橋	7 R	9	1	橋脚躯体工 (張出式)		į	基準高 ▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。	w ₁ 10)-3-7-9
路編	梁下部	C 橋 脚			(重力式) (半重力式)		<u>J</u>	厚 さ t	-20	箱抜き形状の詳細については「道路橋 支承便覧」による。 「3次元計測技術を用いた出来形管理	The table of t	
	印	工					天	天 端 幅 w _{·1} (橋軸方向)	-20	要領(案)」で規定する出来形計測性 能を有する機器を用いることができ	w ₂	
							痩	數 幅 w _{·2} (橋軸方向)	-50	る。(アンカーボルト孔の鉛直度を除く)		
							ıŧ	高 さ h	-50	ただし、「3次元計測技術を用 いた出 来形管理要領(案)」に基づき出来形	h t	
								天 端 長 l.1	-50	管理を実施する場合は、同要領に規定する計測精度・計測密度を満たす計測	★ W 2 → ★ → →	
							敷		-50	方法により出来形管理を実施することができる。	- 核阿中心問距離	
								脚中心間距離 ℓ 支間長及び	±30			
								中心線の変位	±50	_		
							支承部ア	計画高	+10~-20		G L L1 J	
							ンカーボルト	平面位置	±20		h1 -1 a1 1.2	
							-の箱抜き規	アンカーボルト孔の 鉛直度	1/50以下		中心線の変位 (a 1:橋軸直角方向) (a 2:橋軸方向)	
							格値					

編	章	節	条	枝番	工	種	測	定	項	目	規	格	値	測定基準測定箇所	摘要
10 道路編	3橋梁下部	7 RC橋脚工	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)									支承部アンカーボルトの箱抜き規格値 の平面位置は沓座の中心ではなく、ア ンカーボルトの箱抜きの中心で測定。 アンカーボルト孔の鉛直度は箱抜きを 橋軸方向、橋軸直角方向で十字に切っ た2隅で計測。	10-3-7-9

編	章	節	条	枝番	工種	測	定	項	目	規格	値	測	定基	準	測 定 箇 所 摘 要
10 道	3 橋	7 R	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基	準	高	∇	±2	0	橋軸方向の関 部、その他は		中央及び両端	w ₁ 10-3-7-9
路	梁	С				厚		さ	t	-2	0	箱抜き形状の	詳細につ	画別。 いては「道路	Ť
編	下部	橋脚				天	端	福	w. _l .	-2	0	橋支承便覧」 「3次元計測		いた出来形管	h t
		エ				敷	1	福	W.2.	-2)	理要領(案)で規定する出		編(試行)」 性能を有する	\leftarrow \sim
						高		さ	h	-5	0	-	ことがで	きる。(アン	_ t
						長		さ	Q	-2)	ただし、「3	次元計測技	支術を用 いた	h t t
						橋朋	中心間	距離	É l	±3)			」に基づき出 合は、同要領	
							間 長			±5	0			計測密度を満 来形管理を実	
							一一一	ノ (交 1	<u> </u>			施することが		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	支問長
						支承部	F	十画;	高	+10~	-20				
						箱抜き規格値支承部アンカーボル	平	面位	定置	±2	0				中心線の変位
						格値ルボル						-			(a1:橋軸直角方向) (a2:橋軸方向)
						h	アンカー	ホ`ル 公直	ト孔の 度	1/50	以下				(α 2 ・ 同平山刀 円) /
												1			平高位置 平高図:実際
												_			1831
												支承部アンカ値の平面位置		の箱抜き規格 中心ではな	
												く、アンカー		箱抜きの中心	
														直度は箱抜き	
												を橋軸方向、 切った2隅で		方向で十字に	
															アンカーボルト孔の松高度

編	章	節	条	枝番	工種	測定	項	目	規	格	値	測定基準測定箇所	摘要
10 道	3 橋	8 鋼	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基準	高	∇		±20)	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。	
路編	梁下	製橋			(14 14)	幅 (橋車	油方向	w J)		- 50)		
	部	脚一				高	さ	h		-50)	_ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
						長	さ	Q		-50)		
												$\begin{array}{c} \downarrow \\ \downarrow \\ \downarrow \\ \end{array} \begin{array}{c} \downarrow \\ \uparrow \\ \end{array} \begin{array}{c} \downarrow \\ \downarrow \\ \end{array} \begin{array}{c} \downarrow \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \end{array} \begin{array}{c} \downarrow \\ \\ \\ \\ \\ \\ \end{array} \begin{array}{c} \downarrow \\ \\ \\ \\ \\ \\ \end{array} \begin{array}{c} \downarrow \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \end{array} \begin{array}{c} \downarrow \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \end{array} \begin{array}{c} \downarrow \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \end{array} \begin{array}{c} \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\$	

編	章	節	条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10 道路編	3橋梁下部	8鋼製橋脚工	9	2 橋脚フーチングエ (門型)	基準高▽ 幅 w ₁ , w ₂ 高 さ h	±20 -50 -50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端 部、その他は寸法表示箇所。	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
10 道路編	3橋梁下部	8鋼製橋脚工	10	1 橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 ▽ 橋脚中心間距離 ℓ 支間長及び中心線の変位	±20 ±30 ±50	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	中心線の変位 (a 1:橋軸直角方向) (a 2:橋軸方向)	10-3-8-10

編	章	節	条	枝番	I	種	測定項目	規格値	測定基準		摘要
10	3	8	10	2	橋脚架設工	125	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端		10-3-8-10
道路	橋梁	鋼製			(門型)	•	橋脚中心間距離 l	±30	部、その他は寸法表示箇所。		
編	下	橋					世界中心同距離します。 支間長及び		_		
	部	脚工					中心線の変位	±50	_	∇	
										firm from	
										1.20	
										中心線の変位 (a1:橋軸直角方向)(a2:橋軸方向)	
										a1 - a2 -	
										/ : \ /: \	
10	3	8	11		現場継手工		現場継手部のすき間	5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。		
道 路	橋梁	鋼製					δ ₋₁₋ , δ ₋₂₋ (mm)	※ ±5	※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		
編	下部	橋脚									
	н	I									

編	章	節	条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 5	営 箇	所	摘要
10 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	9	橋梁用高欄製作工	部 部材長ℓ(m 材	$\begin{array}{ccc} \pm 3 \cdots \ell & \leq 10 \\ \pm 4 \cdots \ell & > 10 \end{array}$	図面の寸法表示箇所で測定。				
10 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	1 支承工 (鋼製支承)	据付け高さ注1) 可動支承の移動可能量 注2) 支承中心間隔(橋軸直角方向) 水 標軸直角方向 可動支承の橋軸方向のずれ同一支承線上の相対誤差 可動支承の機能確認 注3)	±5 設計移動量以上 コンクリート橋 鋼橋 ±5 ^{±(4+0.5×(B-2))} 1 / 100 5 温度変化に伴う移動量計算値の1/2以上	支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m) 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量を考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。				
10 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	2 支承工 (ゴム支承)	据付け高さ注1) 可動支承の移動可能量 注2) 支承中心間隔(橋軸直角方向) 水平度 橋軸直角方向 可動支承のが非に同一支承誤差 可動支承の機能確認 注3)	ま計移動量以上 コンクリート橋 鋼橋 ±5 ±(4+0.5×(8-2)) 1/300 5 温度変化に伴う移動量計算値の1/2以上	支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m) 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。				

編	章	節	条 枝	番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10 道 路 編	4 鋼橋上郊	8橋梁付屋	3	落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削 孔長	設計値以上	全数測定		
	部	属 物 工			アンカーボルト定着長	'-20 以内 かつ -1D以 内			
10 道 路	4 鋼 橋	8 橋梁	5	地覆工	地覆の幅 w1	$-10\sim +20$	1 径間当たり両端と中央部の 3 ヶ所測 定。	W ₁ W ₂	
編	上部	付属物			地覆の高さ h	$-10\sim +20$		h h	
		エ			有効幅員 w2	0~+30		T v	
10	4 鋼	8 橋	6	橋梁用防護柵工	天 端 幅 w1	$-5\sim +10$	1径間当たり両端と中央部の3ヶ所測 定。		10-4-8-6 10-4-8-7
道路	橋	梁付	7	橋梁用高欄工	地 覆 の 幅 w2	$-10\sim +20$	L.		10 4 6 7
編	上部	属物			高 さ h1	$-20\sim +30$		h1	
		工			高 さ h2	$-10\sim +20$		W2	
					有 効 幅 員 w3	0~+30		W1	
								h1	
10 道	4 鋼	8 橋	8	検査路工	幅	±3	1ブロックを抽出して測定。		
路編	橋上	梁付			高さ	±4			
מחקה	部	属物工							

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値 測定基準 測定箇所	摘要
10 道路編	5コンク	6 プ レ ビ	2		プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央	
	リ ト	A お				高 さ h	+10 -5 部の3ヶ所とする。 1:スパン長 h	
	橋上部	橋工				桁 長 l スパン長	 ℓ <15···±10 ℓ ≥15··· ± (ℓ-5) カンつ -30mm 以内 	
						横方向最大タワミ	0.81	
10 道路編	6 トンネル (NATM)	4 支 保 工	3		吹付工	吹付け厚さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工延長 20m毎に図に示す。 施工端部、突出部等の特殊な(1)~(7)及び断面変化点の検測孔を測箇所は設計吹付け厚の 1/3 注)良好な岩盤とは、「道路トンネル技以上を確保するものとする。 (4) (4) (5) S.L. (5) (6) (7) (7) インバート	
10 道 路	6トン	4 支 保	4		ロックボルト工	位置 間隔	施工延長 20m毎に断面全本数検 _	国 40m ↓ 県 20m
編	ネル	エ				角 度) Z Z O III
	N A T					削 孔 深 さ		
	M <u></u>					孔 径		
						突 出 量	プレート下面 から10cm以内	

編	章	節	条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10 道	6 ト	5 覆	3	覆エコンクリートエ	基準高 (拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工 20m につき 1 ヶ所。		国 40m
路編	・ンネ	I			幅w(全幅)	-50	(2) 厚さ (1) コンクリート打設前の巻立空間を1打		県 20m
利用	ルル				高さh(内法)	-50	設長の終点を図に示す各点で測定。中間 部はコンクリート打設口で測定。		
	N				厚 さ t	設計値以上	(ロ) コンクリート打設後、覆エコンクリー トについて1打設長の端面 (施工継手の		
	A T				延 長 L	_	位置) において、図に示す各点の巻厚測 定を行う。		
	M						(ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は 20mに1ヶ所、(2)~(3)は100mに1ヶ所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2ヶ所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 なお、変形が収束しているものに限る。・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。・鋼アーチ支保工、ロッグボルトの突出。・計測手法については、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることが出来る。	f (2) (3) 覆エコンク (5) S.L.	<u> </u>
10 道	6	5 覆	5	床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長 20m につき1ヶ所、延長 20m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ		国 40m
路編	トンネ	工			厚 さ t	-30	所。		県 20m
が無	ル								
	N A								
	T M								
	Ů.								

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘要
10 道	6 ト	6 イ	4		インバート本体工	幅 w (全幅)	-50	(1) 幅は、施工 20m につき 1 ヶ所。(2) 厚さ		国 40m ↓
路編	ーンネ	ンバ				厚さ t	設計値以上	(イ) コンクリート打設前の巻立空間 を1打設長の中間と終点を図に示		県 20m
が冊	ル					延 長 L	_	す各点で測定。		
	N	エ						(p) コンクリート打設後、インバー トコンクリートについて1打設長		
	A T							の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行	G.	
	$\bigcup_{i=1}^{M}$							う。		
									t	
									(1) (2) (3) インバート	
									$\stackrel{\longleftarrow}{_{\hspace{0.5cm}}}$	
10 道	6 ト	8 坑	4		坑門本体工	基準高 ▽	±50	図面の主要寸法表示箇所で測定。		
路編	ンネ	門工				幅 W ₋₁ , W ₋₂	-30		L W_1	
7710	ル					高 h < 3 m	-50			
	N A					h h ≧3m	-100			
	T					延 長 L	-200		h	
	UI UI									
									k → W2	
									2	

編	章	節	条	枝番	工	種	測定	項	目	規格	値	測	定	基	準	測	定	笛	所	摘要
10 道 路	6 トン	8 坑 門	5		明り巻工		基準高	(拱頂	ĺ)	±50		20m につき 1	lヶ所を	測定。	は、施工延長					国 40m ↓ 県 20m
編	ネル	エ					幅 w	(全幅	<u>(</u> 1)	-50		~⑩におい						t ↓		7,7,232
	N A T						高さh	(内法	()	-50								h	W	
	$\stackrel{1}{_{\smile}}$						厚	さ	t	-20								V		
							延	長	L	_		_					2	1	3	
																(アーチ部)	6	0 %	3 0 3	
																46	$-\!$	(側壁部	~	
																	(1)	ンバー	ト部)	
																	8	9	10	

編	章	節	条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘 要
10 道	11 共	6 現	2	現場打躯体工	基準高 ▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表 示箇所で測定。	
路編		場打			厚 さ t	-20		
///	147	構			内 空 幅 w	-30		twtwtwt
		築工			内 空 高 h	±30		
					ブロック長 L	-50		
10 道		6 現	4	カラー継手工	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所で測定。	
路編	同溝	場打			幅 w	-20		t <u> </u>
/MHI	1#	構			長 さ L	-20		⊥
		築工						
								√ W
10 道	11 共	6 現	5	1 防水工 (防水)	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂 版で測定。	
路編	同溝	場 打						
Aylin	1117	構築						
		工						W
10		6	5	2 防水工	 厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」で測定。	
道路	共同	現場		(防水保護工)				
編	溝	打構						t] _
		築工						<u> </u>

編	章	節	 条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘 要
10	11	6	5	3 防水工	高 さ h	-20	図面の寸法表示箇所で測定。	
道 路	共同	現場		(防水壁)				t -
編	溝	打				±50		· 1
		構築			厚 さ t	-20		h
		I						w w
10		-					#-75 00 No. 2 7 75 00	
10 道	11 共	7 プ	2	プレキャスト躯体工	基準高▽	±30	施工延長 20m につき1ヶ所、延長 20m 以下のものは1施工箇所につき2ヶ	国 40m ↓
路編	同溝	レキ			左 宇 同 ∨	30	所。ただし、基準高の適用は据付後の 段階検査時のみ適用する。	県 20m
///iiu	177	ヤ			延 長 L	-200	延長: 1 施工箇所毎	L
		スト						
		構築						
		I						da ad bac aaa
10 道	12	5 電	2	管路工 (管路部)	埋設深t	0~+50	接続部(地上機器部)間毎に1ヶ所。	
路	電線	電線			延 長 L	-200	接続部(地上機器部)間毎で全数。 【管路センターで測定】	G t
編	共同	共同					.【官路センターで側た】	100100
	溝	溝工						00:00 00:00 00:00 00:00 00:00
		上						
								<u>'</u>
								接続部 接続部 (地上機器部)

編	章	節	条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測定箇所摘要
10 道路編	12電線共同溝	5電線共同溝工	3	プレキャストボックス工 (特殊部)		±30	接続部(地上機器部)間毎に1ヶ所。	
10 道路編	12電線共同溝	6 付帯設備工	2	ハンドホールエ	基準高▽ ※厚さt₁~t₅ ※幅 w₁, w₂ ※高さh₁, h₂	±30 -20 -30 -30	1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合	$ \begin{array}{c cccc} t_3 \\ w_1 \\ t_4 \\ \hline t_1 \\ \hline w_2 \\ \hline t_2 \\ \hline h_1 \\ \hline \end{array} $

ŕ	扁	章	節	条	枝番	工 種	ì	則定項目	個々の測定値	格 値 平均の 測定値	- 測	定	基	準	涉	IJ	定	笛	所	摘要
ì	各	14 道路維持	4 舗装工	5	1	切削オーバーレイエ	, ((厚さ t (切削) 厚さ t オーバーレイ) 畐 W 延長 L		(X ₁₀) -2 -9 -25 -100 3m プロフィルメーター (σ) 2.4mm 以下 直読式 (足付き) (の) 1.75mm 以下	厚さは40m年 基準レは40m至 が進高のイはの差後の 関定心はする。 を を を が は を が は を が は を が は を が は と が が は と が が は と が が れ と が 、 の で る で る で る で る で る で る で る で る で る で	「切り」 「切り」 「切り」 「切り」 「切り」 「かり」 「かり」 「かり」 「いっち」 「いっち」 「はいっち」 「はいっち」 「はいっち」 「はいっち」 「いっち」 「いっ	削後の表」。 調の表」。 に合 測 にない にない。 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、	基準高とオーで算出する。 で算出する。 がの割とし、 がの割とし施工とを変えることは は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	t +			k w 、平坦	関する	10-14-4-5
ì	0 道路編	14 道路維持	4 舗装工	5	2	切削オーバーレイエ (面管理の場合)厚さtまたは標高較差(切削)のみ		厚さ t 標高較差) (切削) 厚さ t (ケーパ・レル) 幅 W 延 長 L		-2 (2) -9 -25 -100 3mプ ロフィルメーター (の) 2. 4mm以下 直読式(足き) (の) 1. 75mm以 下	1. 施工程度 理理 できます は 1. 施工程度 管理を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1 を 1	関の	場合にするには、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	する。 の点で設計面との 助する。計測する。計 出する。計 とする。 は、現舗装高と切 基準高の差」で算 の中心とする。 にしている。 にしている。 にしている。 にしている。	t *	7.	757		Ç.	10-14-4-5
ì	0	14 道路維持	4 舗 装 工	7		路上再生工	路盤工	厚さ t 幅 w 延長 L		-30 -50 -100	幅は延長 40r 厚さは、各車 中央の3点を	線 40	m毎に	左右両端及び	t +	- 187°	現舗製	~ J	3	国 80m ↓ 県 40m

編	章	節	条	枝番 工 種	測定項目	規格値	測 定 鋼げた等	基準 トラス・アーチ等	測 定 箇 所	摘要
10 道路編	16 道路修繕	3 工場製作工	4	桁補強材製作工	腹 板 高 h (m)	$ \begin{array}{l} \pm 2 \cdots w \leq 0.5 \\ \pm 3 \cdots \\ 0.5 < w \leq 1.0 \\ \pm 4 \cdots \\ 1.0 < w \leq 2.0 \\ \pm (3 + w / 2) \cdots 2.0 < w \end{array} $	主げた・主構床組など	各支点及び各支間 中央付近を測定。 構造別に、5部材に つき1個抜き取っ た部材の中央付近 を測定。	h h w l 型鋼げた トラス弦材	
					フランジの直角度 δ (mm)	w/200		各支点及び各支間中央付近を測定。	w/2 δ	
					圧縮材の曲がり δ (mm)	l /1000		主要部材全数を測定。 l : 部材長 (mm)	δ δ	

編	章	節	条	工 種	測定項目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所 摘 要
14 公	2 植	3 植		植栽工 高木・中木	樹 高 (H)	-0	全数を測定項目に従って実測(100本以上の 場合は10本に1本の測定)	5
園緑	栽	栽工		ledy) - 1 21-	葉 張 (W)	-0	- W [1810 11 = 17 17 17 17 17 17 17	,I
地編					幹回り (C)	- 0		4
が抽								1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
				植栽工低木	樹 高 (H)	-0	抜取り測定 (同一樹種、規格で)	. w .
				EXT	葉 張 (W)	-0	100株までは 10% -100株~500株 7%	
					本 数	- 0	500株以上 5% 一を測定	المسمرا
							一位 例足	1)
				張芝	面 積	-1%	全面積測定	
				つる性補助 笹類、草木類等	面積	- 1 %	全面積測定	
					株数	- 0	-	
				球根	球数	- 0	全数	
				種子	面積	-1%	全面積測定	
				-+-12-				
				支柱	結 東 高 さ	±20%	抜取り測定 - 支柱タイプごとに10組に1組を標準とする。	
					結 東 本 数	- 0		

編	章	節	条	工 種		測定項目	規 格 値	測 定 基 準	測	定	筃	所	摘要
14 公	3 施			遊具 (ジャングルジム・滑台		設置高さ	±30	1箇所/1基					
園緑	設整			等)		幅	-30	基礎 1 基毎					
地編	備				基	高 さ	-30						
裲					礎	根入れ長	設計値以上	※施工に当たっては安全性に留意しなければならない。					
				園路園地舗装工 (石張、平板、ダスト簡易		面積	- 1 %	各測点ごとに測定する。					
				舗装等)									
				運動施設 (クレイ舗装)		基準高さ	±20mm	厚さ及び硬度は500㎡に1回とし硬度につい てはプロクターニードル貫入抵抗値測定に					
					庭球	厚さ	-10mm	よる。					
					場	平 坦 性	±5 mm以内						
						硬 度	400b 以上						
						基準高さ	±20mm						
					野球	厚さ	-10mm						
					場	平 坦 性	±20 mm以内						
						硬 度	300b 以上						
					陸	基準高さ	±20mm						
					上競	厚さ	-10mm						
					技場	平 坦 性	±10 mm以内						
					芴	硬 度	600b 以上						
				基盤工		基準高さ	±20mm	500 m²に1 回					庭球場、 野球場、
				下層工		厚さ	±20mm	500 m²に1 回					陸上競技 に適用
				中層工		厚さ	±20mm	500 ㎡に1 回					1000/11

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水 道	1 管 路	3 管きょ	管路	管路掘削	深さ h	±30	マンホール間ごとに1箇所測定する。	The state of the s	任意土工 の場合は
道編		エ	土工		幅 B	-50		h	除く。
		開 削)						$\begin{vmatrix} B \end{vmatrix}$	
15 下 水	1 管 路	3 管 きょ	管路	管路埋戻	基準高▽	±30	マンホール間ごとに1箇所測定する。	200	
水道編		よ工(開	土工						
		削)							
15 下 水	1 管 路	3 管 き	4 管 布	管布設 (自然流下管)	基準高▽	±30	基準高、中心線の変位(水平)は、マンホール間の中央部及び両端部を測定する。		
水道編		T (設工		中心線の変位(水 平)	±50			
		開 削)			勾配	±20%		[23323333]	
					延長 ℓ	−ℓ/500カン −200	延長0はマンホール間を測定する。		
					総延長 L	-200			

ЩЖ	DEAT	- AB (T).	X 0 ///	見格値 第15編 ト水迫編					単位:mm
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水	1 管 路	3管きよ	省布	矩形渠 (プレキャスト)	基準高▽	±30	基準高、中心線の変位(水平)は、施工延長20mにつき1箇所の割合で測定する。		
水道編		エ	設工		中心線の変位(水 平)	±50			
		開 削)			勾配	±20%			
					延長 0	−ℓ/500カンつ −200	延長0はマンホール間を測定する。	<u> </u>	
					総延長 L	-200			
15 下水道	1 管 路	3管きょ	管布	圧送管	基準高▽	±30	施工延長40mにつき1箇所の割合で測定する。		
道編		エ	設工		中心線の変位(水 平)	±50			
		開 削)			総延長	-200			
15下水道編	1 管 路	3管きょ	管基	砂基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測 定する。		
道編		エ	礎工		幅 B	-50			
		開 削)			厚さ h	-30		h ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓	
								, , ,	
15 下 水	1 管 路	3 管きよ	管基	砕石基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測 定する。		
水道編		エ	礎工		幅 b	-50			
		開 削)			厚さ h	-30			
								:. < b →	

H17147	/// [] -]		,,,	17位 第13編 「小垣禰					₽1¼·mm
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水	1 管 路	3管きよ	5 管基礎	コンクリート基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測 定する。		
水道編		エ	谜 工		幅 b	-30			
		開 削)			厚さ h	-30			
								h h	
								5	
15 下 水 道	1 管 路	3管きよ	5 管基礎	まくら土台基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び両端部等を測 定する。		
編		エ	() 工						
		開削)							
1.5	,	2	-				各マンホール間の中央部及び両端部等を測		
15 下 水 道	1 管 路	3管きよ	5 管基礎	はしご胴木基礎	基準高▽	±30	各マンホール間の中央部及び岡端部等を測定する。		
福		エ	() 工		幅 b	-30			
		開 削)			厚さ h	-30			
								b h	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水	1 管 路	3 管きよ	水	現場打水路	基準高▽	±30	基準高、中心線の変位(水平)、幅、高 さ、厚さは、1打設長ごとに両端部等を測 定する。		
水道編		エ	路築造工		中心線の変位(水 平)	±50	1打設長が20m以上の場合は、20mにつき1箇 所の割合で測定する。		
		開 削)			幅 b	-30		1 <u>tl</u> b 1 t l	
					高さ h	±30			
					厚さ t	-20			
					勾配	±20%		***************************************	
					延長 0	-ℓ/500ガン -200	延長0はマンホール間を測定する。		
					総延長 L	-200			
15 下 水	1 管 路	3 管 きょ	管路	鋼矢板土留	基準高▽	±50	施工延長20mにつき1箇所測定する。 20m未満は、1施工箇所につき2箇所測定す る。		
水道編		エ	土留工		根入長 L	設計値以上		変位 ⇔ ▽ □ □	
		開 削)			変位	100			
								<u> </u>	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	海型·mm 摘要
15 下 水 道	1 管 路	4 · 5 管	3 推進工	推進工	基準高▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、推進管 1本ごとに1箇所測定する。 2.中心線の変位(水平)は、直線のみの		
編		き よ エ			中心線の変位	直線のみの推進区間 ±50	推進区間(スパン)の場合上段値、曲線を含む推進区間(スパン)は下段値とする。		
		小口			(水平)	曲線を含む推進区間 ±100			
		径 推 進、			延長 0	-ℓ/500カュつ -200	延長0はマンホール間を測定する。	中心線の変位(水平) ※直線のみの推進区間(スパン)	小口径推進工 の出来形につ いては、機器
		推 進)			総延長 L	-200		※但縁のみの推進区間(ハブ)	の読み値によ る管理で良い こととする。
								※曲線を含む推進区間(スパン)	
15 下 水	1 管 路	4 • 5	4 立 坑	空伏工	基準高▽	±50	1施工箇所ごとに測定する。		
水道編		管 き よ	内 管 布		幅 b	-30			
		工(小	設 工		高さ h	-30		← b →	
		口 径 推			中心のずれ	±50		h	
		進、推進			延長	-50			
		進			勾配	± 20%			

			, , ,		,		1	r	- 中心・皿
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水	1 管 路	6 管 き	3 一 次	掘進工	基準高▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、セグメント5リングにつき1箇所測定する。		
水道編		T (覆 工		中心線の変位 (水平)	±100			
		シール			延長 0	−ℓ/500カンつ −200	延長0はマンホール間を測定する。		
		(بر)			総延長 L	-200			
15 下水道	1 管 路	6 管き	4 二 次	二次覆工	基準高▽	±50	基準高、中心線の変位(水平)は、施工延長40mにつき1箇所測定する。		
道編		т Т	覆 工		中心線の変位 (水平)	±50			二次覆工厚については、一
		シール			二次覆工厚 t	-20	二次覆工厚は、1打設につき端面で上下左右4点を測定する。		次覆工の出来 形を基に再 度、計画のう え、監督員の
		(بر)			仕上がり内径 D	±20	仕上がり内径は、施工延長40mにつき1箇所 測定する。	Z i	承諾を得るも のとし、その 計画に対し施
					延長 ℓ	−ℓ/500カュつ −200	延長0はマンホール間を測定する。		工管理するものとする。
					総延長 L	-200			

ших	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		~ O 790	四位 为10厘 一八戶厘					単位・皿
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15下水道編	1 管路	7 管きょ 更生	管きょ 内面	反転・形成工法	仕上がり内径D	硬化直後と24時間 以降の測定値で差が ないこと	1スパンの上下流管口で測定する。 人が入って測定できる場合は、仕上がり内 径について1スパンの中間部付近でも測定 する。 それぞれ更生管円周上の6箇所で測定す る。	330°	最新版の「管 きょ更生工法 における設
		I	被覆工		更生管厚	6箇所の平均管厚が 呼び厚さ以上で、か つ上限は+20%以内と し、測定値の最小値 は設計更生管厚以上 とする。	硬化直後と24時間以降で同じ測定位置で計 測し記録する。	270° 01 90° 210° 150°	計・施工ガイ ドライン (案)」に準 拠して実施す る。
15下水道編	1 管路	7管きょ 更生工	3 管きょ 内面被覆工	製管工法	仕上がり内径 (高さ・幅)	平均内径が設計更生 管径を下回らない。	1スパンの上下流管口で測定する。 人が入って測定できる場合は、仕上がり内 径について1スパンの中間部付近でも測定 する。 それぞれ更生管の内側中央高さと幅の2箇 所で測定する。	0° 表面部材 既設管 充て ん材 180°	最新版の「管きょおして」という。 きょける正ができませんでは、 をできまませんでは、 をできまませんでは、 をできままままままままままま。 とのできまままままままままままま。 とのできままままままままままま。 とのできまままままままままままままままままままままままままままままままままままま

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水	1 管 路	8マン	現場	現場打ちマンホール工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
水道編		ホール	打ちマ		幅 b (内法)	-30			
		エ	ンホー		壁厚 t	-20			
			ル エ		人孔天端高	±30		±	
15下水道編	1 管 路	8マン	3 現場	マンホール基礎工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
道編		ホール	打ちマ		床掘深 H	±30			
		エ	ンホー		基礎工幅 B1	-50			
			ル エ		基礎工高 h1	-30			
					コンクリート工幅 B2	-30			
					コンクリート工高 h2	-10		H2 tw tw 1√ √ − B2 → − B1 →	

	, p p - 5			1111			1		単位・皿
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水	1 管 路	8マン	組立	組立マンホール工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
水道編		ホール	マンホー		人孔天端高	±30		GL	
		エ	 ル エ						
	1	0	-						
15 下水	1 管 路	8マン,	小型	小型マンホール工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
水道編		ホール	マンホー		人孔天端高	±30		GL	
		エ	 ル エ						
15 下	1 管 路	9 特		現場打ち特殊人孔	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
水道編	路	殊マ	体工						
補		ンホー			幅 B	-30			
		ル エ			高さ h	±30			
					壁厚 t	-20		rsd la vt.	
					人孔天端高	±30		$ \begin{array}{c} h \xrightarrow{B} - \\ \downarrow \qquad \qquad \qquad \downarrow \qquad \qquad \downarrow \qquad \downarrow \qquad \downarrow \qquad \downarrow \qquad \downarrow \qquad \downarrow \qquad \downarrow$	
								O t DESCRIPTION OF THE PROPERTY OF THE PROPERT	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要	
15 下 水	1 管 路	9 特 殊	伏せ	伏せ越し室・雨水吐室	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。			
水道編		マンホー	越し室		幅 b (内法)	±30		**************************************		
		 ル 工	雨水		高さ h	±30				
			吐室工		厚さ t	-20		^t		
								h v v v v t		
								· t b t		
15 下 水	1 管 路	9 特 殊	伏せ越し管		伏 せ	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
- 水道編		マンホ	越し管		中心線の変位	±30				
		 ル 工	エ							

				一一	The chart is	規格値	Tru also stet Me.	Year and a state	平15.11
編	章	節	条	工種	測定項目	(mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水	1 管 路	9 特 殊	越流	越流堰(雨水吐室)	基準高▽	±10	基準高は、中央部および両端部を測定す る。		
水道編		マンホー	堰(雨		幅b (厚さ)	±20	幅、高さ、延長は、1施工箇所ごとに測定 する。	(
		 ル エ	水吐室)		高さh (深さ)	±30			
					延長L (長さ)	-20		* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	
								₽	
								↑ ↑ h	
15 下 水 道	1 管 路	9 特 殊		中継ポンプ施設	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		
道編		マンホ			幅、長さ B	-30			
		 ル 工			深さ h	-30			
					壁厚 t	-20			
								$\rightarrow \left \begin{array}{c} \downarrow \\ \downarrow \\ B \end{array} \right \left \begin{array}{c} \downarrow \\ \uparrow \\ \downarrow \end{array} \right $	
								, t b t	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15下水道編	1 管路	10取付管およびます工	4ます設置工	公共ます	ます深 h	±30	1施工箇所ごとに測定する。	h GI	
15下水道編	1 管路	10取付管およびます工	5取付管布設工	取付管	延長 (L)	-200	1施工箇所ごとに測定する。	G C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水	1 管 路	13 立 坑		立坑工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		任意仮設
水道編		エ			寸法 B	±100		12300	の場合は 除く。
					深さ h	±30		h	
								B 1	
15 下 水	1 管 路	13 立 坑		立坑土工	基準高▽	±30	1施工箇所ごとに測定する。		任意仮設
水道編		エ			砕石基礎幅b1	-50			の場合は 除く。
					砕石基礎厚t1	-30			
					底版コンクリート基準高	±30		$ \begin{array}{c c} \hline & \hline $	
					底版コンクリート幅b2	-30			
					底版コンクリート厚t2	-10			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水 道	2 処 理	6 本 体	掘削	土工(掘削)	基準高▽	±50	施工延長おおむね40m (小規模なものは 20m) ごとに基準測線を設定し、基準高を 10mごと、変化点ごとに測定する。		
道編	場・ポ	作業土	I		幅B	-100		P P P P P P P P P P P P P P P P P P P	
	ンプ場	I						B	
15 下 水 道	2 処 理	7 本 体	2 土 留	土留・仮締切工 (H鋼杭、鋼矢板)	基準高▽	±50	施工延長20mにつき1箇所測定する。 20m未満は1施工箇所につき2箇所測定す る。		任意仮設の 場合は除く
道編	場 ・ ポ	仮 設 工	仮締		根入長 L	設計値以上			
	ンプ場		切工		変位	100		L	
								* 	

	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			化俗性 第10編 下小坦柵				_	単位·mm
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水道	2 処 理 場	8 本体築	9 躯体工	構造物基礎	幅 W	設計値以上	施工延長20mにつき1箇所以上測定する。施 工延長20m以下は、1施工箇所につき2箇所 測定する。		
道編	・ポ	築造工	エ		厚さ t	設計値以上			
	ンプ場				延長	各構造物の 規格値による		#	
15 下水道	2 処理場	8 本体	躯体	池・槽の主要構造物	基準高▽	±30	1池(又は1槽)について、図面の主要なる 寸法表示箇所を測定する。		
福	・ ポ	-体築造工	I		幅 b	±30		<u> </u>	
	ンプ場				高さ h	±30		h t	
					壁厚 t	-20			
						ただし床版厚 -10			
					長さ	±50			
15 下 水	2 処理	8 本体:	躯体	池・槽の付属構造物	基準高▽	±20	1施工箇所ごとに図面の主要なる寸法表示 箇所を測定する。		
水道編	場・ポ	築造工	エ		幅 b	±20		<u>▼ </u>	
	ンプ場				高さ h	±20		t h	
					壁厚 t	±10			
					長さ	±50			

1-17147	и п.д		,,,,	竹匠 先137冊 八旦帰					牛™·IIIII
編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水	2 処理場	8 本 体	9 躯体工	開口部	幅 b	±20	永久開口部ごとに測定する。		
水道編	・ ポ	-体築造工	工		高さ h	±20		← b ↑	
	ンプ場							h	
15 下	2 処	8 本	9 躯	ゲート用開口部	基準高▽		開口部ごとに測定する。		
水道	処理場	本体築	躯体工			+0		<u> </u>	
編		造	Т		幅 b	+0			
	ポン	エ				+20			
	ン プ 場				高さ h	±20		h h	
								<u> </u>	
15 下 水	2 処 理	8 本 体	躯 体	可動せき用開口部	基準高▽	-20	開口部ごとに測定する。	* .**	
水道編	場・	築造	エ		幅 b	-0		↑	
79111	ポ	工			VEEL U	+20			
	ンプ場				高さ h	±20		<u></u>	
								ь 7	

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水	2 処 理	8 本 体	越流	流出トラフ	基準高▽	±20	基準高は、1施工箇所ごとに交差点等を測 定する。		
水道	理場・ポ	: 築 造 工	樋工		幅 b	±20	幅、高さは、各池の1施工箇所について3箇 所測定する。	t b t	
	ンプ場				高さ h	-20			
					厚さ t	±20			
					長さ	±50	長さは、各池外周部の1施工箇所について 測定する。		
15 下 水	2 処理場	8 本 体 築	12 越流堰	越流堰	基準高▽	±20	基準高は、中央部及び両端部を測定する。	S econdary N	
水道編	場 ・ ポ	築造工	堰 板 工		幅 b	±20	幅、高さは、1施工箇所ごとに測定する。	$\stackrel{\nabla}{\longleftrightarrow}$	
	ンプ場				高さ h	-20			
					長さ	±20		R A	
15 下 水 道	2 処理場	8 本体		燃料貯留槽工	基準高▽	±30	設計図の寸法表示箇所を測定する。	L L	
道編	・ポ	· 築造工			厚さ t	-20			
	ンプ場				幅 w	-30			
					高さ h	±30		h	
					延長 L	-50			

編	章	節	条	工種	測定項目	規格値 (mm)	測定基準	測定箇所	摘要
15 下 水	2 処 理	9 場 内	省布	流入渠・流出渠	基準高▽	±30	設計図の寸法表示箇所を測定する。		
道編	場 ・ ポ	管路工	設工		幅 b	-30		t b kt	
	ンプ場				高さ h	-30			
					厚さ t	-20		<u> </u>	
					延長	L<20m: -50			
						L≧20m: -100			